

◇各学部設備一覧（各学部・研究科部分含む）

学部名	主な設備・機器の設置及び更新状況
薬学部実習室	実験実習台 40 台（1974・1975 年設置）、移動式モニターTV 9 台（1990 年設置）、ドラフトチャンバー22 台（1975 年設置/2000・2001 年更新）、融点測定装置 20 台（1981 年設置/1992 年から毎年 2 台更新）、顕微鏡 80 台（1981 年設置/1992 年から毎年 2～5 台更新）、ロータリーエバポレータ 12 台（2001 年設置）、液体クロマトグラフ 17 セット（2003～2008） 実験台（流し台）8 台（2007 年設置）、
歯学部実習室	実験実習台 60 台（1980 年設置）、1 人用実習台 330 台（1980・1985 年設置）、天吊式モニターTV 43 台（1997 年～1998 年設置）、顕微鏡 120 台（1980 年設置/2000 年更新）、分光光度計 12 台（1980 年設置/1997 年～1999 年更新）、X 線照射装置 1 台（2002 年設置） 臨床シミュレーション装置 20 台（2006 年設置）、 実習教育システム装置 120 台（2006 年設置）
看護福祉学部	電動ベッド 3 台（1993 年設置）、ギャッジベッド 19 台（1993 年設置）、バスルーム 1 台（1993 年設置）、天吊モニターTV 6 台（1993 年設置）、蘇生訓練生体シミュレーター1 台（1993 年設置）、ピアノ 4 台（1993 年設置）、特殊浴槽（2001 年設置）、ストレッチャー1 台（2001 年設置）、調理台 5 台（2001 年設置）
心理科学部	聴力検査室 1 室（1993 年設置）、ポリグラフ 6 台（1993 年設置）、臨床用多現像モニター 4 台（1993 年設置）、除細動器 1 台（1993 年設置）、天吊式液晶プロジェクター3 台（2002 年設置）、学生ブースユニット 64 台（2002 年 3 月）、AV システムドーム型コンビネーションカメラ 3 式（2003 年設置）、検査用具 19 種/72 点（2004 年設置）、PPS システム 1 式（2008 年設置）、オーディオメーター12 台（2003・2008 年設置）、幼児用聴覚検査装置（2003 年設置）、インピダンスオーディオメーター（2003 年設置）、補聴器特性試験装置（2003 年設置）、幼児聴覚検査装置（2006 年設置）、検査用具 11 種/25 点（2008 年設置）、CSL システム 1 式（2003 年設置）、発生機能検査装置（2003 年設置）、バイオラボ 1600 システム 1 式（2003 年設置） 携帯型自動血圧心拍計 2 台（2003 年設置）、
基礎棟実習室	実験実習台 32 台（1985 年設置）、ドラフトチャンバー7 台（1985 年設置）、生物顕微鏡 90 台（1985 年設置/1992 年・1995 年更新）、シンクロスコープ 10 台（1989 年設置）、分光計 4 台（1995 年設置）
薬学研究科	実験台 57 台（1975 年設置）、ドラフトチャンバー16 台（1975 年設置/2000・2001 年更新）、質量分析計 1 台（2002 年設置）、高速液体クロマトグラフ 7 台（1993～2002 年設置）、マイクロダイリシス分析システム一式（2001 年設置）
歯学研究科	実験台 57 台（1981・1982 年設置）、ドラフトチャンバー11 台（1977～1980 年設置）、電子顕微鏡 1 台（1999 年設置）、高速冷却遠心機 1 台（1997 年設置）、分散型蛍光 X 線分析装置 1 台（2001 年設置）
看護福祉学研究科	移動式モニターTV 6 台（1993 年設置）、聴力検査室 1 室（1999 年設置）、パーソナルコンピュータ25 台（1995 年設置）、テープレコーダー12 台（2000 年設置）
心理科学研究科	検査用具 2 種/11 点（2006 年設置）、ドーム型コンビネーションカメラ 7 式（2003 年設置）、バイオフィードバック装置 7 台（2003 年設置）

【点検評価】

本学の教育水準を維持するため毎年度点検、見直しを行い、年次計画に基づき全学的な施設・設備等の整備を行ってきている。また、学生、教職員の人命の安全確保を基本とする耐震補強工事を進めている。各学部・各研究科の整備状況等は以下のとおりである。

＊薬学部・薬学研究科 施設・設備

本学部は、学部校舎に加えて、主として基礎科目の講義と実習で使用する基礎棟、他学部との共有施設である総合図書館（資料検索・情報検索）、動物実験センター（生物・医療系学生実習）、アイソトープ研究センター（学生実習）、大学病院・歯科内科クリニック（病院実習）、薬用植物

園、体育施設、実習室、情報処理室が完備しており、教育研究目的を実現するための施設・設備の整備は適切に行われ有効に活用されている。さらに薬学教育6年制移行に伴い、中央講義棟が新設され、講義棟には前述のとおり各種の大講義室、CALL教室、薬学臨床実習室（無菌製剤室・注射管理室・模擬ナースステーション等）が完備され、最新の設備環境の中で教育が実践されている。なお、学生・教職員の安全を第1に考え、下表一覧のとおり薬学部の校舎全体に耐震補強工事を実施した。本研究科の校舎は全て学部校舎との併用で教育が実施されている。さらに薬学研究科は1996（平成8）年より、働きながら学ぶ社会人の修学機会確保の観点から、学生の生活形態を考慮し、大学院における履修形態を弾力化した。夜間においても授業を開講する「14条特例制度」を実施している。夜間の開講にあたっては札幌サテライトキャンパス、心理科学部、本学個性差医療科学センター・大学病院等施設（札幌あいの里キャンパス）を併用し、社会人学生に過度の負担が生じないように配慮するとともに、教育環境の整備を図っている。また、文部科学省の私立大学学術研究高度化推進事業に本研究科が申請・採択された研究拠点として、本学薬用植物園内に新たに「伝統薬物研究センター」を建設し、アイヌ民族が残した北方系伝統薬物などの遺伝子保存や情報のデータベース化を進めるとともに、新たに薬のもととなる植物の発掘を行うなど、伝統薬物研究の先端的研究を展開している。

以上、記載のとおり学部・研究科共に特に問題はない。

* 歯学部・歯学研究科 施設・設備

本学部は、当別キャンパスの他の学部と同様に学部校舎に加えて、共有施設である総合図書館（資料検索・情報検索）、動物実験センター（生物・医療系学生実習）、アイソトープ研究センター（学生実習）、体育施設、実習室、情報処理室が完備しており、教育研究目的を実現するための施設・設備の整備は適切に行われ有効に活用されている。学部教育の中心は学部校舎の実習室や演習室で行われ、さらに臨床実習は当別キャンパスの歯科内科クリニック、あいの里キャンパスの大学病院臨床実習施設を利用して行われている。また、2006（平成18）年に文部科学省の助成金によって臨床シミュレーション装置20台および実習教育システム120台を導入して「マルチメディア臨床シミュレーション実習センター」を開設して、最新の臨床教育を実践している。なお、薬学部同様に歯学部においても、歯学部講義棟耐震補強工事が実施された。

本研究科の校舎は一部講義室を除いて学部との併用で、教育が実施されている。同キャンパス内の「個性差健康科学研究所」施設・設備を利用して、教育・研究が行われている。また、施設設備および履修形態の両面で学生へ配慮されていることは評価できる。さらにアクセス面を重視した札幌サテライトキャンパスの利用や履修形態の弾力化で社会人学生への配慮も評価できる。

* 看護福祉学部・看護福祉学研究科 施設・設備

本学部は、前述の他の学部と同様に学部校舎に加えて、共有施設である総合図書館（資料検索・情報検索）、動物実験センター（生物・医療系学生実習）、アイソトープ研究センター（学生実習）、体育施設、実習室、情報処理室が完備しており、教育研究目的を実現するための施設・設備の整備は適切に行われ有効に活用されている。学部教育への必要な機器は学部・学科単位で検討を行い、整備をしている。社会のニーズに対応すべく、学部校舎の講義室環境、教育機器等は前述の一覧どおり整備されている。教員研究室の整備状況は本学で最適な環境と言える。

大学院の講義室等は学部との共用で行われ、さらに札幌あいの里キャンパス、札幌駅前に立地する札幌サテライトキャンパスを併用して、夜間開講を行い、社会人学生の勉学に対して配慮している。

* 心理科学部・心理科学研究科 施設・設備

学部の臨床心理学分野では、実習等にも対応しうる研究科に附属の臨床心理相談室及び基礎領域の実験室として、より高度な実験環境が設定できる部屋の整備、また調査データ等の集計ができる大部屋などが望まれる。教育に関する設備は本学の最後発の学部ということで、最新の設備が多く、快適な環境で教育が実践されている。

研究科の教育は前述の各講義一覧のとおり学部校舎の併用で実施している。ただし、本研究科臨床心理専攻の専有施設である「心理臨床・発達支援センター」では同専攻が臨床心理士養成施設として、その特殊性から近隣の医療機関からの紹介患者のカウンセリングや療育相談を実践した教育が行われている。

◇耐震補強工事实施一覧

2008（平成 20）年度は薬学部棟、体育館、食堂棟について実施した。さらに翌年度の 2009（平成 21）年度には歯学部講義棟に関して同工事を行った。耐震補強工事の全容は以下のとおりである。

実施年度	工事棟名	面 積（㎡）	工事経費（千円）
2008（平成 20）年度	薬学部棟	13,078	805,665
	体育館	1,105	
	食堂棟	1,746	
2009（平成 21）年度	歯学部講義棟	4,863	249,690

【改善方策】

今後も財政の許す範囲で年次計画に基づき学内整備を進めて行く。耐震補強工事も人命を第 1 に考え段階的に進めて行く。さらに環境保全の観点から積極的に「省エネルギー対策整備（人感センサー照明工事等）」を進めて行く。

②教育の用に供する情報処理機器などの配備状況

【到達目標】

効果的かつ高い情報教育を行うために、可能な限り OS を含むアプリケーション等のソフト類やハード類について最新機器への更改を行う。

【現状の把握】

本学は、学生に対し質の高い教育を提供すべく、ネットワークやマルチメディア機器を活用した教育を推進している。

情報処理系の教室は当別キャンパスに 2 室（情報処理教室・CALL 教室）、札幌あいの里キャンパスに 1 室を設置し、情報処理教育並びに語学教育の利用に供している。また、大人数の学生を収容可能な各学部の主要講義室にはマルチメディア教育対応設備が整備されている。

上記教室設備のほか、学内には貸し出しパソコン及び情報コンセントを整備し、講義以外でも学生が自主的に情報処理機器の利用が常時可能な状況である。

なお、2009(平成 21)年度中に CALL 教室情報機器を OS を含めた最新機器に全面更改予定。

<情報処理機器等の配備状況>

教室・講義室名	ハード	ソフト
情報処理教室 (看護福祉学部棟)	学生用PC 64台+予備機2台 学生用PC：Sony Vaio Type J OS:Windows Vista Business CPU:Core 2 Duo E7400 2.8GHz メモリ:4GB HDD:320GB DVD-Super Multi プリンタ：Canon LBP-3300 2台、LBP5050N1台 AV機器：プロジェクタ(6000ANSI LM)・OHC・ビデオ・画像一斉分配表示システム	MS-Office2007Pro Acrobat Reader9.0.0 Internet Explorer 7 Mathematica6.0 ChemBioDraw11.0 (運用管理ツール) HP CAMPUS ESPER Lite 瞬快 (並) Ghost Solution Endpoint Protection 11.0

CALL教室 (中央講義棟)	学生用PC 80台 学生用PC : Compaq Evo D510 OS:Windows 2000Pro CPU:Celeron2GHz メモリ:512MB HD:80GB プリンタ : RICOH IPSiO NX86S 4台 AV機器 : プロジェクタ(3500ANSI LM)・OHC・ビデオ・ CD-RW・LD・MDレコーダ	Acrobat Reader9.0.0 Visual Studio.NET Pro MS-OfficeXPSt StarSuite11・タイプ君Lite2.0 Internet Explorer 6 Mathematica6.0 IBM ホームページビルダー7 FFFTP1.96・ChemBioDraw11.0
講義室 基礎棟 G-1～3 薬学部棟 P-1,P-2,P-6 歯学部棟 D-1～4 看護福祉学部棟 N-21～27,N-31,N-41 ～44 心理科学部棟 全教室	パソコン : DELL OptiPlex GX240 OS:Windows XP Pro CPU:Pentium4 1.7GHz メモリ:256MB HD:37GB CD/DVD AV機器 : AVコントロール卓 プロジェクタ (2400 ANSI LM) OHC ビデオ (ミニDV、DV、S-VHS)	MS-Excel 2002・MS-Word 2002 MS-PowerPoint 2002 MS-Access 2002 Internet Explorer 7 Acrobat Reader9.0.0
中央講義棟 C-1～5	パソコン : DELL OptiPlex GX745 OS:Windows XP Pro CPU:Pentium4 HT 3.0GHz メモリ:1GB HD:150GB CD/DVD AV機器 : AVコントロール卓 プロジェクタ(5000 LM) OHC ビデオ(VHS) DVDプレーヤー	MS-Excel 2007・MS-Word 2007 MS-PowerPoint 2007 MS-Access 2007 MS-Publisher 2007 InfoPath 2007 Internet Explorer7 Acrobat Reader9.0.0

<その他情報関連機器等配備状況>

キャンパス	施設等	配備状況		
当別	総合図書館	パソコン	デスクトップ	11 台
			ノート（固定）	14 台
			ノート（貸し出し）	20 台
		貸し出し無線 LAN カード		18 台
	就職相談フロア（学生支援課）	パソコン	デスクトップ	3 台
			ノート（固定）	4 台
	基礎教育棟	情報コンセント		ロビー10 箇所
	薬学部棟	情報コンセント		ロビー36 箇所
	歯学部棟	情報コンセント		D-5 講義室 60 箇所 ロビー8 箇所
	看護福祉学部棟	情報コンセント		ロビー124 箇所
中央講義棟	情報コンセント		C1・C2・C3 講義室 各 211 箇所	
			2 階ロビー21 箇所	
	無線 LAN アクセスポイント		3 階ロビー1 箇所	
札幌あいの里	総合図書館あいの里分館	情報コンセント		30 箇所
	講義室 3－3	情報コンセント		182 箇所
	講義室 2・1（LL/CPU 教室）	情報コンセント		167 箇所
	講義室 5－9	情報コンセント		92 箇所
	学生ロビー（1・3・5 階）	情報コンセント		各 120 箇所
	食堂（1 階）	情報コンセント		20 箇所
	心理科学課	貸し出しパソコン		10 台

【点検評価】

CALL 教室を除き、主要な講義室に設置されているパソコンの OS は、全て社会的に最も普及している Windows XP が導入済である。また情報処理教育の拠点ともいえる情報処理教室には、

現時点で最新 OS である Windows Vista がインストールされた高スペックのパソコンが導入されており、一般的な各種ソフト類や教育用アプリケーションの稼働に際して十分な環境が全学的に整備されている。

プロジェクター等の AV 機器類についても、効果的な教育方法のひとつであるパワーポイント使用時や DVD 等のメディアを用いた講義を実施する際に十分なスペックを有している。

このほか、講義室・ロビー等にて常時使用可能な情報コンセントや、貸し出しパソコンについても必要十分な数が整備・提供されている。

【改善方策】

現状の CALL 教室機器については、パソコン OS が旧式の Windows2000 であることと、CALL システムについてもカセットテープを主体としたものであることから、効果的な語学教育ならびに情報教育の実施が可能とは言い難い状況である。しかしながら、2009(平成 21 年)度中に OS を含む最新機器への更改が予定されており、2010(平成 22 年)度からはこうした状況は改善される。その他の状況については、上述の通り、効果的な教育を行うにあたり、ほぼ十分な配備状況といえるが、今後社会的な普及が予想される新しい OS (Windows7) や、ブルーレイ、デジタルハイビジョン等の次世代規格メディア等への対応を踏まえた、長期的な機器更新計画の策定が必要である。各学部のネットワーク委員会における検討結果を踏まえ、情報センターと教育開発センター協働のもとで計画を策定する。

(2) キャンパス・アメニティ等

① キャンパス・アメニティの形成・支援のための体制の確立状況

【到達目標】

1. 『学生生活実態調査』結果に基づいて実施されたキャンパス・アメニティ形成・支援のための諸施策が、次回の『学生生活実態調査』において、満足度の上昇として数値に反映されることを目標とする。
2. 「食」は学生の心身の健康を支える重要な要素であることから、食堂改善については、今後も SCP を中心に継続して取り組んでいく。食堂利用者である学生・教職員の意見や感想を参考にしながら、客観的に判断するため、SCP が独自で行っている食堂利用者に対する食後の満足度調査及び『学生生活実態調査』において、満足度の上昇として数値に反映されることを目標とする。
3. 両キャンパスにおける学生相談室の利用者の増加が著しいことや、近年、学生のメンタルヘルスの問題が重要視されていることから、両キャンパス共に利用者数に見合い、かつ学生が利用し易い学生相談室の体制を整備する。

【現状の把握】

1. 学務連絡協議会構成員から選出された担当教員及び学生支援課が中心となって隔年で『学生生活実態調査』を実施しており、調査結果を報告書として取り纏めている。調査内容や調査対象については、前回の調査結果を踏まえて、毎回見直しが図られている。主な調査内容は、本学への入学理由や学業・進路に関すること、住居・生活費・アルバイトなど学生の暮らしに関すること、クラブ・サークル加入状況・通学方法・通学時間・授業時間外の過ごし方などキャンパス生活に関すること、図書館・学生会館・食堂・売店・学生ホール・トイレ等の学内福利厚生施設・設備に対する満足度に関することとなっている。直近の調査は 2008 (平成 20) 年 10 月から 11 月にかけて実施され、今回は前回と同様、全学生を対象に調査が実施された。なお、今回の調査では、喫煙に関する設問を追加した他、複数設置されている食堂や売店等については、具体的に施設名を特定して回答できるような設問にするなど、よりキャンパス・アメニティを重要視した内容に改善されている。
2. 本学では、より良い大学づくりを目指すためには、重要な構成員である学生の協力が不可欠

であると考え、欧州の大学で置かれている「学生副学長（Vice President）」を参考にして、2008（平成 20）年度より「Student Campus President（SCP：学生キャンパス副学長）制度」を導入した。SCP は、立候補による選挙により各学部から 1 名、計 4 名選出され、任期は 8 月から翌年 7 月までの 1 年間となっており、再任は認められていない。また、SCP には、1 人あたり年間 30 万円の活動費と制服のブレザーが支給される他、専用の執務室が設置されている。SCP 活動の一環として、大学の施設設備・サービス等に対する意見、要望を学生に募ったところ、食堂に対する要望が最も多かった。これを受けて、SCP が 2008（平成 20）年 12 月に食堂に特化したアンケートを全学生及び教職員に実施した結果、混雑解消、味の向上、メニュー構成の見直し等についての改善要望が多く出された。一方で、食堂以外の大学の施設設備・サービス等に対する学生の意見内容を取り纏め、改善要望書として大学へ提出された。

3. 食堂等利用者の満足度向上に資することを目的に、学生及び教職員の利用代表者からなる「食堂等利用者協議会」が 2002（平成 14）年度に組成されているが、2008（平成 20）年度に食堂改善プロジェクトを推進している SCP を構成員として再組成された。また、2008（平成 20）年度に学園の環境保全に関わる省エネルギー、省資源、廃棄物削減等に関して適切な措置を講じるため「環境保全委員会」が設置されたが、学生の全面的な協力がなければ実現が困難であることから、学生の代表として SCP が構成員として選出されている。
4. 当別キャンパスには保健管理センターが設置されており、常駐の保健師（看護師）が、定期健康診断・健康相談などの企画・実施を行っている他、学生・教職員の健康を保持増進するために必要な知識の提供を行ったり、病気や身体的な悩みなどの相談に対応している。また、保健管理センターの下、両キャンパスに学生相談室が設置されており、臨床心理士の資格を有するカウンセラーが週 1 回、学生生活を送る上で直面する様々な悩み（自分の性格、対人関係、恋愛問題等）について相談に応じ、アドバイスや指導を行うことにより、問題の解決を図っている。

【点検評価】

1. 取り纏められた『学生生活実態調査』報告書は、教職員に配布される他、調査結果に関連する部署にも配布されることにより、有効活用されている。なお、キャンパス・アメニティに関する調査結果に対するソフト面での対応は、学生支援課において今後の学生支援方策を策定する際の、同じくハード面での対応は、管財課においてキャンパス整備の年次計画や中長期計画を策定する際の貴重な参考データとして、有意義に利用されている。
2. SCP の食堂改善プロジェクトの推進により、新企画メニュー・期間限定メニュー・テイクアウトメニュー等の導入、SCP 参画による共同メニューの今後の開発計画、箸を利用した食堂利用者の満足度調査の実施、混雑緩和に向けた券売機の設置・移設や座席レイアウト・配膳時の導線の見直しなどが実現され、今まで停滞していた食堂改善に関して大きな前進が見られた。食堂以外の大学の施設設備・サービス等に対する改善要望事項 55 件についても、13 件の改善が実現されており、改善が実現できなかった項目についても、SCP を通じて要望を出した学生に実現できない理由が示されたことから、大学のキャンパス・アメニティへの取り組みに対する学生の理解が深まっている。
3. 札幌あいの里キャンパスの学生相談室の利用者数の増加が著しいことから、従前、週 1 回の開室であったが、2009（平成 21）年 4 月より、週 2 回の開室に変更している。当別キャンパスにおいても、学生相談室の利用者数が増加していることから、開室日の増加に関する検討が必要である。

【改善方策】

1. 学務連絡協議会構成員である各学部の学生部長・教務部長等や学生支援課により、今回の『学生生活実態調査』報告書の分析作業が進められており、キャンパス・アメニティを含んだ今後の学生支援方策について現在、検討中であるが、具体的な方策として掲げることにより早期の

- 実現を目指す。また、管財課において施設・設備等のキャンパス整備を計画・実施する際は、『学生生活実態調査』結果を反映し、より学生のニーズが高いものを優先的に着手する。なお、今回の『学生生活実態調査』報告書については、学生の視点から大学の施設設備・サービス等の改善要望を提案する際の基礎データとして活用できるよう SCP に対しても配布されている。
2. SCP の各種プロジェクトの展開により、キャンパス・アメニティが着実に向上を遂げていることから、食堂改善プロジェクトを始めとした各種プロジェクトが次期 SCP に引き継がれ、加えて、新規プロジェクトが展開されることにより、今後も新たな改善が期待できる。大学としても、これまで以上に学生代表としての SCP の要望に対して、真摯な姿勢で取り組むことにより、キャンパス・アメニティのより一層の向上に繋げる。
 3. 学生相談室の開室日については、それぞれのキャンパスの今後の利用状況を観察しながら、必要があれば、当別キャンパスについては週 2 日体制への変更、札幌あいの里キャンパスについては更なる開室日の増加対応をしていく。また、現在、当別キャンパスの学生相談室を男性カウンセラーが、札幌あいの里キャンパスの学生相談室を女性カウンセラーが、それぞれ担当しているが、女子学生が半数を占めている本学の実情を勘案して、男性カウンセラーと女性カウンセラーを両キャンパスに交互に配置することにより、同性のカウンセラーへの相談を可能とするなど、深い悩みを抱えた学生がより相談に訪れやすい環境を整備していく。

②「学生のための生活の場」の整備状況

【到達目標】

1. 学生のニーズ等を踏まえて、施設・設備の拡充などの量的整備から質的整備への移行を図っていく。その際、学生にとって、いかに快適な「学生生活の場」を提供できるかを十分に念頭に置きながら、現有施設・設備の有効かつ効率的な活用と現体制の見直しを推進していく。
2. キャンパス・アメニティ同様、客観的な判断基準として、隔年で実施している『学生生活実態調査』において、各項目の満足度が数値上に反映されることを目標とする。

【現状の把握】

1. 各学部等には学生ラウンジが整備されており、それぞれのラウンジの一部にコピー機や各種飲料水の自動販売機が配置されている他、銀行・郵便局の ATM・自動証明写真機・食堂・売店等が設置されている。
2. 地元当別町と連携して設置した JR「北海道医療大学」駅は、当別キャンパス正門から約 50 m に位置する。同駅は、学生の交通利便性向上を図るため本学が旧国鉄と折衝を重ね、1985(昭和 60)年に無人の駅舎(「大学前」駅)を設置(総工費 665 万円のうち 335 万円を本学負担、その後当別町に移管寄付)したことに始まる。1994(平成 6)年に 20 周年記念会館の建設に合わせて駅ホームと大学校舎を結ぶ空中歩廊を設置し、同時に駅名を「北海道医療大学」へと変更した。1997(平成 9)年には更なる学生の交通の利便性向上のため、運行本数の増便を JR に働きかけた結果、受益者である本学が引き込み線の設置費用(用地取得費と併せて 3 億 1 千 200 万円)を負担することによって、列車の増便を図ることが可能になって今日に至っている。
3. 2006(平成 18)年 4 月より、当別町が事業主体となる当別町コミュニティバスに参加しており、運行路線 9 路線のうち、当別キャンパスと札幌あいの里キャンパスを通る 2 路線、13 往復が無料で利用でき、学生の課外活動等におけるキャンパス間の移動手段として利用されている。
4. 本学における駐車場は次のとおり整備されている。なお、札幌あいの里キャンパスについては、学生の自家用車通学が全面的に禁止されている。

	教職員・学生用	患者・学外者用	合 計
当別キャンパス	703 台	39 台	742 台
札幌あいの里キャンパス	59 台	204 台	263 台

【点検評価】

1. 当別キャンパスは JR「北海道医療大学」駅と直結しており、悪天候時でも外を通行せずに校舎に入ることが可能である。札幌あいの里キャンパスは JR「あいの里教育大学」駅から徒歩約 3 分の至近距離にあり、公共のバスも運行していることから、交通の利便性も良く、周囲の環境も良好である。なお、両キャンパスは J R だけではなく、コミュニティバスにより行き来ができるようになっている。
2. キャンパスの施設・設備は年次計画に基づき、毎年計画的に実施されている。各学部の講義室及び実習室についても年次計画により冷房設備が完備された。今後は耐用年数を超過した箇所の冷房設備を随時更新していく必要があるが、北海道の気候条件から冬期間のボイラー暖房運転を行う時間の方が長いことも勘案し、また、省エネ対策も踏まえて、今後、冷房設備を更新する際には、冷暖房付き機種を導入することが望ましい。
3. 図書館はもとより、学生ラウンジ、食堂、講義で使用していない教室等において、平日ばかりではなく学校休業日にも自習をしている学生が多く見受けられる。特に教室については、講義の有無や先約の有無による使用制限、防犯上の問題による夜間の使用制限、省エネ対策による冷暖房の使用制限などの制約も多いことから、専用の自習室が設けられることが望ましい。
4. 札幌あいの里キャンパスはフィットネスセンター以外の屋内・屋外体育施設が整備されており、心理科学部学生は、現在、当別キャンパスまで移動して課外活動を行っている状況にある。なお、コミュニティバスのダイヤは心理科学部学生の授業終了時刻に合わせて編成されるなど、課外活動を行うに当たっての利便性が考慮されている。
5. その他、各学部の学生ラウンジを始めとした食堂・売店等の施設、コピー機・自動販売機・ATM・自動証明写真機等の付帯設備については有効に活用されている。

【改善方策】

1. JR 北海道より、桑園－北海道医療大学間 (28.9 km) の電化工事に着手し、供用開始は 2012(平成 24)年春を予定していることが発表された。これにより、本学から札幌まで 7 分間の時間短縮になる他、既に電化されている新千歳空港や岩見沢方面に直接乗り入れることも可能となり、両キャンパスへの交通の利便性や大幅なダイヤ増便が見込まれる。ダイヤ編成の際には、JR を利用している学生・教職員のニーズをより反映した運行時間の設定と運行便数の増加について JR に働きかけていく。
2. 自習室については、現状では全学的に部屋自体が不足しており専用の部屋の確保が困難であること、短期的展望としての施設の拡充も非常に難しいことから、現有施設を効率的に活用すると共に、学生が快適に自習を行える学内の環境づくりや体制の整備を目指す。
3. 心理科学部学生が、当別キャンパスまで移動しなくても課外活動ができるよう、今後、札幌あいの里キャンパスの屋内・屋外体育施設の整備について検討する必要がある。但し、体育施設・設備の整備には多大な費用と時間を要することから、当該キャンパスにおいて他の施設の増築・新築計画や、設備の修繕・更新計画が発生した際に、併せて体育施設・設備についても年次計画を策定し中・長期的展望に立った年次計画が必要である。

③大学周辺の「環境」への配慮の状況

【到達目標】

環境保護を意識した、省エネ、省資源、廃棄物削減、さらに現状の緑豊かなキャンパスを維持する。

【現状の把握】

1. 環境保全対策

本学では環境に与える負荷の低減等を積極的に図るため、2008（平成 20）年度に「環境保全規程」を制定した。本規程では省エネルギー、省資源、廃棄物削減の 3 項目を中心に据えて各種環境問題へ対応して行く。さらに 2009(平成 21)年度には、学生参加型の「環境保全対策委員会」を以下のとおり組成して、積極的に推進している。

環境保全対策委員会委員長：事務局長	
当別キャンパス 対策委員会	学生部長（薬学部・歯学部・看護福祉学部）、管財課長、 学生支援課長、 クリニック事務課長、学術情報課長、 学生キャンパス副学長（薬学部・歯学部・看護福祉学部）
札幌あいの里キャンパス 対策委員会	学生部長（心理科学部）、心理科学課長、病院事務課長、 学生キャンパス副学長（心理科学部）
サテライトキャンパス 対策委員会	教育研究推進課長
浦臼診療所対策委員会	クリニック事務課長
茨戸教育研修センター 対策委員会	管財課長

なお、教育ならびに研究等で使用する大学の周辺環境を汚染する物質（劇毒物・放射線同位元素・特別管理産業廃棄物等）への諸対策についても「保安管理規程」によって、具体的な予防措置が明文化されている。

2. 自然環境に融和する教育施設（薬用植物園および北方系生態観察園）

本学の当別キャンパスに併設されている薬用植物園は約 3,900 m²の面積を有し、下表の植物が栽培されている。また、一般者にも公開している「薬草園を見る会」には、近隣の市町村から多くの参加者を集めている。

温 室	薬用植物標本園	北方系薬木
○南方系植物 インドジャボク ウコン キンカン クミスクチン チョウジ ガジュツ など約 220 種	○北方系植物 センキュウ ウイキョウ ウラルカンゾウ オタネニンジン ダイオウ ジギタリス など約 250 種	キハダ キササゲ レンギョウ ハウノキ トチュウ ニガキ モクレン など約 10 種

◇「薬草園」年間来園者数

2008(平成 20)年度	2007(平成 19)年度	2006(平成 18)年度	2005(平成 17)年度
4,271 名	4,112 名	3,430 名	3,282 名

＊北方系生態観察園

本学が所有する敷地の約 50%を占める山林（153,000m²）には 40 種以上の北国の薬草・薬本が自生していることから、2001(平成 13)年 6 月に全長 2 km のウッドチップを敷き詰めた散策路が整備され、「北方系生態観察園」の名称で、植物だけでなく野鳥や昆虫、小動物の観察園として活用されている。この広い園内には、日本薬局方に収載されている重要な薬用植物が多数自生している。現在、植栽品も含め、600 種以上の植物が観察できる。

【点検評価】

規程の制定ならびに対策委員会組成を実施したが、現状では際だった効果を上げるまでに至っていない。しかし、2009(平成 21)年度には以下のとおり環境への各種取り組みを実施した。

1. 当別キャンパスの薬学部 26 箇所、看護福祉学部 10 箇所に省エネ工事（人感センサー設置・省エネ照明設置—経費：445 万円）を実施。
2. 省資源化（コピー用紙使用量削減）を促進するために看護福祉学部において印刷機器を省資源タイプに入れ替え、さらに使用量の多い講座には毎月の使用量を報告して、消費自粛を依頼。
3. 「緑豊かな学園」である当別キャンパスの薬用植物園内に 2009(平成 21)年 8 月に文部科学省の研究基盤支援事業である「北方系伝統薬物研究センター」が併設され、今後、ますます多くの見学者が園内に訪問することが予想される。

*北方系伝統薬物研究センター：鉄筋コンクリート 2 階建てで面積が 551 m²で研究室 3、作業室 2、資料展示室等が配置されており、北海道の伝統薬草物から未知の薬効成分の抽出等を行い、それらの有効利用に関する研究を行う施設。

4. 北方系生体観察園を縦断する散策路に配置されている、東屋、手すり、路上のウッドチップ等の老朽化、消耗が激しく適宜、修繕を要する。

【改善方策】

1. 環境保全（省エネ・省資源・廃棄物削減）に対する全教職員が共通の意識の下、積極的に削減等を進めることが基本である。その意識の醸成を図る上で、学生も構成員である「環境保全対策委員会」、広報誌、WEB を利用して環境保全に対する啓蒙活動を進める。
2. 当別キャンパスの自然環境は、薬草園ならびに北方系生態観察園(153,000 m²)に取り囲まれて緑豊かなものとなっており、今後も現状の維持に心がけて行きたい。

(3) 利用上の配慮

①施設・設備面における障がい者への配慮の状況

【到達目標】

本学の教育理念で唱われている「保健・医療・福祉の連携と統合」「社会の福祉に貢献する」に基づき「キャンパスのバリアフリー化」を優先して実施して行く。

【現状の把握】

1. 当別キャンパスでは歯学部附属病院開院時（1978(昭和 53)年）以来、開業医での診療が困難な心身障害者を積極的に受け入れており、病院内はトイレをはじめとして心身障がい者への

配慮に基づいた施設設備が整備されている。

2. 当別キャンパスの3学部ならびに1専門学校は、各校舎が独立した建物となっていてそれぞれが渡り廊下で接続されているが、校舎内は段差が多いなどバリアフリーの考え方が十分ではない設計となっている。高齢化社会に於けるバリアフリーは時代の要請であり、特に本学は保健・医療・福祉に貢献する人材養成を教育理念にしていることから、バリアフリー対策として主に車椅子対応の年次計画を立て整備している。
3. あいの里キャンパスは、大学病院は開設当初より、身障者対応のトイレ・エレベーター等が整備されている。
4. 心理科学部は2002(平成14)年設置時にバリアフリー化を設計に盛り込んだ。中央玄関(階段)のスロープとエレベーター内の操作盤は、札幌医療福祉専門学校時代に既に整備されているが、それに加えて各階に車椅子対応の専用トイレの整備、また、全ての講義室に車椅子対応の座席を2席設置した。

以上について現状の整備状況は下表のとおりである。

学部等名	整備内容	整備箇所	実施年度
薬学部	車椅子用総合玄関スロープ	1	1987(昭和62)
	車椅子用段差スロープ	2	1995(平成7)
	車椅子用エレベータ操作盤	3	2002(平成14)
	車椅子用トイレ	5	2007(平成19)
歯学部	車椅子用玄関段差スロープ	1	1995(平成7)
	車椅子用トイレ	2	2002(平成14)
	食堂棟への連絡通路改修	1	〃
	車椅子用エレベータ操作盤	2	〃
看護福祉学部	車椅子用玄関段差スロープ	1	1993(平成5)
	車椅子用トイレ	3	
	車椅子用エレベータ操作盤	1	
	連絡通路用エレベータ	1	
基礎棟	車椅子用トイレ・車椅子用段差スロープ	2	2007(平成19)
心理科学部	車椅子用総合玄関スロープ	1	2002(平成14)
	車椅子用エレベータ操作盤	1	
	車椅子用トイレ	4	
衛生士学校	車椅子用段差スロープ	1	2002(平成14)
	車椅子用トイレ	1	〃
総合図書館	車椅子用段差スロープ	4	1995(平成7)
	車椅子用エレベータ操作盤	1	1986(昭和61)
	車椅子用トイレ	1	〃
体育館	連絡通路階段用リフト	2	1995(平成7)
20周年記念会館	車椅子用玄関段差スロープ	1	1995(平成7)
中央食堂棟	車椅子用段差スロープ	1	1995(平成7)

【点検評価】

当別キャンパス校舎内の身障者対応の整備は計画の77%が終了した。未整備部分として20周年記念会館と総合玄関を結ぶ渡り廊下、さらに薬学部と総合図書館を結ぶ地下連絡通路の各々の段差解消が大きな問題として残っている。

札幌あいの里キャンパス・心理科学部は、当別キャンパスの建築物に施されている身障者対応の整備は完了し、さらに設置時に障がい者対応の机、椅子等が配備されている。

【改善方策】

北海道医療大学前駅から 20 周年記念会館さらに総合玄関への渡り廊下と薬学部と総合図書館を結ぶ地下連絡通路は、それぞれ段差が多いためステップリフト設置等が求められ、特に JR 駅と本校舎を結ぶ渡り廊下への対応は急を要する。また、当別キャンパスの各講義室においては、身障者対応の机・椅子の整備を計画的に行う必要がある。

②キャンパス間の移動を円滑にするための交通動線・交通手段の整備状況

【到達目標】

各キャンパス間の交通手段を確保して、利便性の向上を図る。

【現状の把握】

1. 本学では、2006 年（平成 18 年）3 月にスクールバスを廃止し、同年 4 月より当別町が国庫助成を受け、民間に運営委託している当別町コミュニティバスに参画している。当別町コミュニティバスは当別・札幌あいの里キャンパス間を 1 日 8 往復、また学生の居住の中心となる当別町へ 1 日 13 往復が無料で利用でき、学生、外来患者及び本学教職員等の交通機関の一つとなっている。一方、当別キャンパスに本学の専用駅的性格を持つ JR 学園都市線「北海道医療大学駅」が設置されており、同駅と札幌あいの里キャンパス（JR あいの里教育大駅）を約 20 分の所要時間で結び利便性が保たれている。
2. JR からは利用状況に応じてダイヤ編成の配慮を受けている。特に本学で実施する入学試験や入学式・卒業式などの際は、臨時列車の運行や車両の増加など特段の配慮を得ている。また JR では 2012 年（平成 24 年）に電化（高速化）を決定しており、時間の短縮及び列車の増便が期待される。
3. 札幌市内に開設している札幌サテライトキャンパスは、現在、当別・札幌あいの里キャンパス間と同様に交通手段は JR である。

【点検評価】

1. 札幌あいの里キャンパス開設以来、当別キャンパスとの往来に JR 学園都市線を利用する教員が増加している。現行 JR は、学生の授業終了時間、教員の授業開始時間の対応はとれているが、下り（あいの里教育大駅→北海道医療大学駅）の 11 時～13 時台と、上り（北海道医療大学駅→あいの里教育大駅）の 11 時～13 時台が 1 時間に 1 本であるため、この時間帯の列車の増便が望まれる。
2. クラブ活動の拠点はおおむね当別キャンパスが中心となり、札幌あいの里キャンパスの学生は授業終了後、当別キャンパスへの移動を余儀なくされる。クラブ活動終了後における、当別町コミュニティバス及び JR の列車運行本数が少なくなるため、ダイヤの一部改正が必要と思われる。

【改善方策】

1. JR については、2012 年（平成 24 年）電化（高速化）に伴い、列車の増便が期待できる。また、当別町コミュニティバスについては、利用率、利便性を考慮し、当別町と増便等について積極的に検討していく。

(4) 組織・管理体制

①施設・設備等を維持・管理するための責任体制の確立状況

【到達目標】

個々のキャンパス、学部状況を速やかに、より的確に掌握して理事会、事務局が一体化した責任体制の下、維持・管理に努める。

【現状の把握】

本学の施設・設備等の維持・管理の責任体制は、以下のとおり行われている。

1. 所轄部署を事務局に置き経営企画部管財課が主管し、校舎全体及び教育・研究等の機能を確保するため日常における整備・点検を行っており、事業計画ならびに年次計画に基づき各年度の予算承認によって補修・改修工事等を実施している。
2. 校舎等建物の増築、改築さらに耐震補強工事の事業方針・計画等について、事務局が理事会承認に基づき精査を行い、実施している。
3. 日常的な教育・研究施設設備等の管理・運営体制については、学長が各学部・附属機関・研究施設等を総括し、それぞれの管理・運営規程（委員会等）に基づき行っている。

【点検評価】

1. 大学全体における施設・設備等の維持・管理については事業計画及び年次計画に基づいて補修・改修工事が行われ、具体的には 2008(平成 20)年度に耐震補強工事等を実施した。工事に関して、事務局経営企画部管財課が責任を持って業務遂行した。
2. 各学部・附属機関・研究施設等の管理・運営体制については、それぞれの管理・運営規程に基づいて部局長を中心とした責任体制で効率的に運営されている。

【改善方策】

老朽化が進む施設・設備等の維持・管理を効率よく計画的に進めて行く上で、各学部・附属機関・研究施設等の管理・運営状況を的確に掌握して、それらを適宜、年次計画に含め、年度予算に反映して行く。

②施設・設備の衛生・安全の確保を図るためのシステムの整備状況

【到達目標】

「学生、教職員の安全を第 1 に考える学園作り」に基づく関連規程、マニュアルの整備し、必要な各種訓練を実施する。

【現状の把握】

1. 衛生・安全の基本（規程）

本学は、1995（平成 7）年に保安全管理規程を制定し、以下の各項の防災・防火・防犯ならびに学園職員の人身保護・安全に努めており、その対応組織として「保安全管理委員会」をさらに夜間、休日対応として「緊急連絡網」を設置している。

- (1) 盗難などの予防
- (2) 火災の予防
- (3) 石油類、薬品類、毒・劇物、高圧ガスボンベ類による災害の予防
- (4) 放射線障害の発生の予防
- (5) 酸素、笑気、ダイไซด์類による障害の発生の予防

- (6) 廃酸、廃アルカリ、廃油、有害廃液、生物学的感染性廃棄物、感染性医療廃棄物類による障害の発生予防
- (7) 天災地変による災害の対応
- (8) 不審者への対応

学園の保安全管理への対応として各キャンパスに以下の規程を制定して、規程に基づく管理組織（防災管理委員会・防火管理委員会）を設置している。

- (1) 当別キャンパス防災管理規程
- (2) 心理科学部防火管理規程（あいの里キャンパス）
- (3) 大学病院防火管理規程（あいの里キャンパス）

2. 衛生・安全の担保

大規模地震に対応するために耐震補強工事を実施した。2008（平成 20）年度は薬学部棟、体育館、中央食堂棟を行い、2009（平成 21）年度は歯学部講義棟に文部科学省の補助事業として実施した。

当別キャンパスでは建物内の日常的な清掃業務等は清掃会社に委託管理しており、給排水及び飲料水設備の管理は経営企画部管財課施設係が行っている。本キャンパスの飲料水は地下水を利用していることから、濾過装置や活性炭処理装置等を設置し、より安全な水を供給できるよう日々の管理を行っている。一方、あいの里キャンパスについては、建物内の日常清掃業務等を清掃会社に委託管理しており、給排水及び飲料水（上水道利用）設備の管理も当別と同様に経営企画部管財課施設係が行っている。また、両キャンパス共に安全確保の面ではガスを使用する室等にはガス遮断装置およびガス漏れ警報器を設置して事故防止に努めている。

なお、本学の衛生・安全への具体的な取組とその対処については 1997（平成 9）年に「安全ガイドブック」を刊行した。さらに今年度リニューアル版である「安全ガイドブック 2009」の再発刊を行い、全学教職員、大学院生に配付して、その的確な対処について啓蒙を図っている。その内容は以下のとおりである。

◇「安全ガイドブック 2009」

- ①火災発生時の対応 ②地震発生時の対応 ③不審者の侵入時に係る対応
- ④ケガや急病の応急処置 ⑤薬品類の取扱い ⑥廃液等の管理・処理
- ⑦ガス類の取扱い ⑧放射線の防護と取扱い（アイトブ研究センター使用要領含む）
- ⑨生物学的災害（動物実験センター使用要領含む）及び感染性医療廃棄物の取扱い

【点検評価】

1. 衛生・安全の基本（規程の制定）

当別キャンパスの防火・防災に関する規程は 1990（平成 2）年度制定の「北海道医療大学防火管理規程」ならびに「防火管理委員会内規」であったが、2008（平成 20）年に消防法の改正があり、それに伴い「当別キャンパス防災管理規程」を 2009（平成 21）年度に制定した。本規程は前の二つの規程を統合するもので、さらに地震対策及び不審者対応に関して強化を図ったものである。

2. 衛生・安全の担保

耐震補強工事については今後、年次計画で本工事の対象となる当別キャンパスの歯学部研究棟さらに同学部臨床棟の実施予定である。

当別キャンパスの飲料水は 2 箇所の井戸から汲み上げられる井戸水を利用しているが、月 1 回の業者委託による精密水質検査ならびに毎日実施の管財課施設担当による日常検査によって、片方の井戸水から飲料用には不適となる不純物が発見された。この状況に速やかに対応すべく、旧井戸の使用を中止して、新しい井戸の掘削に着手した。その結果、2008（平成 20）年 12 月に水質、水量とも大変良好な井戸の掘削に成功した。現在は良好な旧井戸と新井戸の 2 箇所の水を利用して当別キャンパスの全学生約 1,700 名（大学院 130・学部 1,470・専門 100）、全教職員約 500 名の飲料水と生活用水をカバーしている。

(1)規程に基づく各種訓練について

全学を対象とする春季の防火訓練や大地震を想定した秋季の防災訓練を実施することで、全学生および全教職員の各種災害に対する「備えの意識」が確実に高まった。

(2)「安全ガイドブック 2009」の効用について

- ①薬品を使用しての実験・研究等における各種想定される事故への対応
- ②実験・実習で使用された薬品の廃液処理
- ③医療廃棄物の適切な取扱い
- ④火災・地震等への的確な対応
- ⑤救急処理への迅速な対応

【改善方策】

1. 衛生・安全の基本（規程の改正）

規程の整合性を図る上で 2009（平成 21）年度に制定された、「当別キャンパス防災管理規程」を基本に据えて、あいの里キャンパスの関連規程の整備を図る。

2. 衛生・安全の担保

継続した耐震補強工事の実施、また、老朽化が一段と進む各施設への対策として、建て替え、改築等も視野に入れて、経済面を考慮した中長期計画のもと取り組んで行く。